

政策3	子どもの未来応援
分野	教育

○市民アンケート調査では「学校の教育環境が充実している」満足度が高い一方、「地域が子育てを応援している」重要度がやや低い傾向がある。また、中高生の「三次への愛着度」は増加しているが、女子学生の愛着が弱い。加えて、「住み続けたい」意向が減少している。

○教育環境の充実や学力の向上に取り組んできたが、児童生徒の「学力」「体力」とともに概ね横ばいで推移している。

○人口減少や厳しい財政状況を背景に、児童生徒の減少や教職員などの人材不足、現行施策の見直しが懸念される。

（必要な力の育成）

○学力は全国平均を上回っており、基礎的な学力は概ね定着している一方で、「学習した内容を組み合わせ、新たな課題を解決していく力」が十分とは言えない。先行き不透明な社会では「知識を活用し、協働して新たな価値を生み出せるか」がますます重要となるため、デジタル技術を効果的に活用しながら、一人ひとりに最適で効果的な学びの支援が必要である。

○発達に課題があるなど、支援の必要な子どもが増加傾向にあるが、関係機関の連携や支援体制の構築がまだまだ十分とは言えない。障害のある子どもだけでなく、全ての子ども達が安心して生き生きと学校生活が送れるよう、一人ひとりの状況に応じた支援が必要である。

○体力は全国平均と同水準であるが、走力及び持久力は十分ではなく、児童生徒の約2割は運動が嫌いな状況にある。運動能力やスポーツへの親しみの向上、部活動環境の確保を図る必要がある。

○超スマート社会を見通し、インターネットやAI等を学習方法や教材に活用するほか、若年期からのICTメディアリテラシーやプログラミング能力を育成する必要がある。また、高校等の卒業後を見通し、工業系や看護系の学びを深められる機会の創出など、卒業後の学びの充実を図る必要がある。

（地域・家庭との協働）

○保護者や地域住民等から多様かつ高度な要請や、開かれた学校運営を求める声が寄せられるようになり、教職員だけでは教育の質的充実は困難となっている。コミュニティ・スクールの推進など、教職員と保護者や地域住民等とが、子供や学校が抱える課題や、達成したい教育目標について共有しながら、各々教育的な役割を自覚し、分担しあったり、時に協力しあったりしながら、地域総がかりでの教育（ひとづくり）を実現する必要がある。また、地域の特色を活かした、三次ならではの教育を進める必要がある。

○こうした取組等を通じて、いったん三次市を離れても、ふるさとを想いつづけ、「三次市に帰ってきたい」と思う人材育成につなげる必要がある。

（活力と信頼の学校）

○暴力行為やいじめ等の早期発見・解決が図られているが、不登校児童生徒は全国や県と同様に増加傾向にある。教育相談体制や不登校児童等に対する支援強化が必要である。

○児童生徒の減少が顕著な地域があるが、学校規模の適正化は十分とは言えない。今後、ますます児童生徒数が減少していく中、地域や保護者の不安・懸念に丁寧に対応しながら、豊かな教育環境につなぐ学校規模適正化及び学校施設整備に取り組む必要がある。

政策 4	豊かな心と生きがい
分野	芸術・文化（生涯学習を含む）

○市民アンケート調査では「美術館やホールなど文化施設が整っている」、「地域の伝統文化を保存継承している」とともに満足度は高く、重要度は低い。中高生アンケート調査では「昔からあるお祭りなど地域の伝統が大切にされている」「美術館やホールなど文化施設が整っている」と思う割合はいずれも高い。

○文化施設（市民ホール、奥田元宋・小由女美術館）の利用人数は、コロナ禍により減少傾向。令和3年度から増加傾向に転じているが、それ以前の水準には戻っていない。

○人口減少・厳しい財政状況を背景に、芸術・文化を継承する地域の後継者やボランティアスタッフ等の人材不足、各施設の維持管理が懸念される。

（芸術・文化活動の推進）

○市民ホールや美術館、もののけミュージアムなどの施設やイベントを通じて、市民が芸術・文化に触れる環境は確保できているが活用には課題もある。価値観の多様化や心の豊かさを求める傾向が重視される社会的背景から、市民が自ら日常的に芸術・文化に触れ、表現（発表）できる機会の創出、多様な芸術・文化活動（自ら、みる・やってみる楽しみ、本物を体験する等）の充実が図られる環境づくりが課題である。

○充実した施設を有効活用し、文化団体・施設等の連携に努めるとともに、活動を支える人材（ボランティアスタッフ等）を確保・育成に努め、芸術・文化活動の活性化を図る。

（歴史・伝統文化の保存・活用・継承）

○文化財をはじめ地域の歴史・伝統文化（史跡寺町廃寺跡、神楽、田楽、もののけなど）は、地域への誇りと愛着を高める重要な要素である一方で、それらの保存・活用・継承にあたって、後継者・人材不足の課題が生じている。市民が地域の歴史・伝統文化を学び、理解を深める取組（デジタル技術の活用、子どもたちを対象とした学習機会、身近に感じてもらえる取組など）を模索し、地域全体で保存・活用・継承していく仕組みづくりが必要である。

（生涯の学び）

○生涯学習の対象者が高齢者中心となっている部分があることは否定できない。市民全体の多様な学びに結びついていない部分もある。また、人生100年時代の到来など社会経済環境の変化に対応するリカレント教育やリスキリング等、自らの学び直しの機会の充実が求められている。

○市民が生涯にわたって学び続けることができるよう、それぞれのニーズに応じた自主的な学びの場の提供（多様な学習機会の情報提供）を含めた生涯学習のあり方の検討が必要である。